

平成 28 年度 五泉市道徳部 活動報告

部長 小島 小百合

1 研究主題

「豊かな道徳性を育む授業を探る」

2 研究の概要

研究主題をもとに、日常の授業づくりに生かすという観点から研究を行う。

3 研究の実際

(1) 指導案検討会(6月)および授業研究(9月) 授業者 加藤 大祐 教諭(五泉小)

(ア) 主題名 : 1学年 「正直な心で」 A-2

(イ) 教材名 : 「いちばん うれしい ありがとう」(自作教材)

(ウ) ねらい : 同じ「ありがとう」という言葉でも、自分の置かれた状況によって受け止め方、感じ方がちがうことに気が付き、自分が不利な立場に立たされることを回避したいという気持ち乗り越えて、正直に生活しようとする心情を育てる。

(エ) 授業の概要

今回の授業では、子どもたちの身近な出来事である「水こぼし」を題材として、授業者の自作教材を使用した。「ありがとう」と言われたときの嬉しい気持ちを児童に意識付けてから、6つの場面に分けて教材文と絵を提示していった。教材文には3つの「ありがとう」という言葉が出てくる。※3つの「ありがとう」を言われた時の「こうた」の気持ちを考えさせることで、同じ「ありがとう」の言葉を掛けられても、受け取る側の気持ちによっては嬉しく感じないことを児童に気付かせていった。(※ ①の「ありがとう」・・・貢献に対する行為自体への賞賛 ②の「ありがとう」・・・貢献に対する行為を褒められているのに、うそをついているために心から喜べない賞賛 ③の「ありがとう」・・・正直になることで自分の心がすっきりとし、心から嬉しいと感じる賞賛)

(オ) 協議会

協議会では、「教材提示」と「3つのありがとうについての児童の捉え」を中心に話し合った。提示した教材を読んで「ぼくもやったことがある」という児童がいたことから、教材が児童の生活経験を想起させる身近な内容であったといえる。教材文が長文だったことから、1年生の発達段階であれば、絵と指導者の話で授業を進めながら、「ありがとう」の言葉を焦点づけてもよいという意見も出された。一番嬉しい「ありがとう」については、授業のねらいに即した③のありがとうを選んだ児童がほとんどであった。児童が選んだ③のありがとうは、①と②と比べてなぜ一番嬉しいのかについて、もっと児童に話し合わせることで、よりねらいに迫れたのではという意見があった。

(2) 講演会「道徳の教科化について」(10月)

阿賀野市立保田小学校長 土田 暢也様を講師に迎え、「道徳教科のポイント」と「授業構想」の2つのポイントに絞って講演をいただいた。道徳の教科化に向けてどんな授業を展開していくのか、実践ビデオの視聴を通して、「発問」「教材の吟味」「評価」について具体的にご指導いただいた。即、実践できるポイントを学ぶことができ、大変有意義な講演であった。

4 成果と課題

「道徳科」実施に向けて、今年度も「特別の教科 道徳」に関する講演会を開くことができ、大きな成果であった。また、事前検討会を設けた上での授業公開であったので、参加者も授業者である加藤教諭の意図を把握して参観でき、充実した研修となった。今後も、価値の押し付けや言われるがままに行動する道徳ではなく、自分のこととして捉え、自分ならどうするかを議論する、考える道徳授業の構想を探っていきたい。